

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より、千葉県内を対象に開催しており、8千人を超える児童が参加しています。



このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを自然と気づかせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想するとき、子どもたちはとても楽しく夢を膨らませます。コンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントでしますが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。

●コンクールのねらい

自分たちを取り巻く環境や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育つ千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるでしょう。それが愛国心につながると良いと思っています。

●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。身の回りや実社会で起こったニュース、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、学校生活にヒントがあります。

●先生や保護者の皆さまに

皆さまにお願いいたします。低学年には、使い捨ての実態やおもちゃの寿命を例に意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

ほんの少しの話し合いが子どもたちの想像力を湧き上がらせるきっかけになるでしょう。

●学齢に応じて

学年を問わず、子どもたちの視点は広く、ごみを減らすためのアイデア、出さないアイデアは大人を感心させるのに十分です。低学年でも楽しく取り組んでいます。「整理整頓」や「環境美化」はコンクールの趣旨から外れますのでご注意ください。

●先生方の声

昨年、作品応募時にいただいた声を抜粋して紹介します。

子どもたちが未来の地球に思いを馳せる、よい機会になったと思います。壊れたものや要らなくなったものを自動でリサイクルして新しいものに作り替えてくれるごみ箱や、自動で分別してくれるごみ箱など、SDGsの視点で考えられており、地球を大切に守っていきたいという子どもたちの思いを感じることができました。<我孫子市>

児童の想像力は本当に豊かで、さまざまな視点から環境問題についてアプローチをかけているなと感じました。普段はなかなか環境問題について考える機会が少なく、学校現場でも教員が環境に触れる場面が少ないため、夏休みにこのコンクールを通じて、子どもたちが環境のことを考える機会があることは大変ありがたく思います。<白子町>

このコンクールに取り組むことにより、子どもたちが現在の自分たちを取り巻く環境に目を向け、自分たちの生きていく未来がどうなっていくか、どうしていきたいかという気持ちを持つことができたように感じました。この機会を生かし学校や家庭でも環境問題に目を向け取り組んでいきたいです。<船橋市>

夏休みの学童保育時間内に「エコ」について考える時間を設け、タブレットで調べ学習も行き、時間をかけ絵の指導を行いました。絵が苦手な子がほとんどの中、興味を持った子が多くおり、時間をかけたことで子どもたちも納得のできる作品ができたと思います。<木更津市>